

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

分担研究報告書

若年乳がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の構築
若年がん患者の妊孕性温存と心理社会的ケアを提供するための院内組織体制の構築、

及び千葉県近接領域の医療連携の推進

研究分担者 川井清考 亀田総合病院 不妊生殖科 部長

研究要旨

若年がん患者の将来の妊娠・出産の希望に対して、がん告知後の早い段階から妊孕性温存の情報提供と、患者が意思決定するための心理支援、妊孕性温存の実施について、亀田グループ関連病院内でどのような体制を備えれば良いかシステム作りに取り組み、実際の診療で運用する事で、本邦での若年がん患者の妊孕性温存を考える心理社会的ケア体制の構築に役立てる事を目的とした。がん患者や家族が妊孕性や将来の妊娠・出産の事で心配を感じたら自ら情報を収集し、相談できる体制を整えるために、当院ではインターネット上にがん・生殖医療の情報を充実させた。がん・生殖医療専門心理士に相談窓口を一本化し、円滑に継続してがん・生殖医療や相談が行えるよう体制を整えた。今後も千葉県の近接領域と連携を進め、がん・生殖医療のネットワーク構築に取り組んでいく。

研究分担者

福間英祐 乳腺科主任部長

研究協力者

越田 佳朋 乳腺科 部長

坂本 尚美 乳腺科 部長

角田 ゆう子 乳腺科 医長

寺岡 晃 乳腺科 医長

中川 梨恵 乳腺科 医長

大内 久美 不妊生殖科 医長

小石川 比良来 心療内科・精神科 部長

奈良 和子 臨床心理室

宮川 智子 臨床心理室

石川 恵 診療部事務室

嶋林 玲子 幕張クリニック看護師

川邊 由美子 亀田クリニック看護師

松崎 晃子 乳癌認定看護師

ための心理支援、妊孕性温存の実施について、亀田グループ関連病院内でどのような体制を備えれば良いかシステム作りに取り組み、実際の診療で運用する事で、本邦での若年がん患者の妊孕性温存を考える心理社会的ケア体制の構築に役立てる事を目的とした。また、亀田グループ関連病院だけでなく、千葉県近接領域の施設と、妊孕性温存等がん・生殖医療の連携体制を推進する事を目的とする。

B. 研究方法

1) 妊孕性温存希望のがん患者を速やかに生殖医療科へ紹介できるよう、電子カルテ上に「がん・生殖医療依頼テンプレート」をがん治療医、生殖医療医の監修のもと作成・修正を行った。(資料1)

がん・生殖医療依頼の連絡が入ると、研究協力者である臨床心理士（がん・生殖医療専門心理士）が、がん患者や家族に妊孕性温存の情報提供、心理支援を行いながら

A. 研究目的

若年がん患者の将来の妊娠・出産の希望に対して、がん告知後の早い段階から妊孕性温存の情報提供と、患者が意思決定する

自己決定をサポートする。その後、生殖医療科の診療を行い、妊孕性温存治療、生殖保存実施を行う診療体制になっている。(資料2)

また、亀田グループ関連病院外からの紹介患者を受け入れるために、「がん・生殖医療についてのお知らせ」や、院外がん患者の受け入れフローを作成し体制を整えた。

(資料3)

がん患者、家族、がん治療に関わるスタッフや行政に対して、妊孕性温存等がん・生殖医療啓発を行い患者の満足度や医療連携の問題点を抽出した。

2) 若年乳がん患者の妊孕性温存を考える心理社会的ケア体制の構築に向けて、JSFPサイコソーシャルケア小委員会(奈良)、日本生殖心理学会のがん生殖保存心理カウンセリング小委員会(奈良、宮川)、JSFPがん・生殖医療連携会議(川井、奈良)、関連学会などに参加して情報収集を行い、各学会、施設間連携、多職種間連携について意見交換などを行い診療上の改善点を調査した。

C. 研究結果

1) 平成28年5月に亀田グループ関連病院として、亀田IVFクリニック幕張を開設した。亀田総合病院附属幕張クリニックと同一建物内にあり、幕張クリニックでフォロー中の乳腺科がん患者や千葉市内の若年患者の妊孕性温存治療について亀田総合病院での治療の補助を行える体制を整備した。現在、医学的適応の妊孕性温存治療(受精卵・卵子)について登録申請中である。行政への啓発活動として、いすみ市長、鴨川市長、館山市長、千葉市長に面会し、がん・生殖医療の啓発推進を打診した。いすみ市は「いすみ市不妊治療費助成事業実施

要綱」を平成28年3月15日告示第24号改正し、がん・生殖医療の患者に独自の助成金を作成した。

がん・生殖医療の連携体制を推進するために千葉県内、近隣県のがん診療施設、生殖医療施設へ研究分担者の川井、研究協力者の奈良で挨拶回りを行った。千葉県がんセンター乳腺外科、千葉医療センター乳腺外科、千葉大学医学部附属病院産婦人科、筑波大学附属病院産婦人科、土浦協同病院、東京共済病院乳腺科へご挨拶に伺い、妊孕性温存等がん・生殖医療の連携について話し合いを持った。

院内啓発として6月30日、7月21日に奈良と川井が、亀田IVFクリニック幕張スタッフにがん・生殖医療の講義を行い、院内では腫瘍内科・乳腺外科・呼吸器内科・薬剤部にも妊孕性温存の治療に対してレクチャーを行なった。

亀田グループ内では、臨床心理士である「がん・生殖医療専門心理士」が妊孕性温存等がん・生殖医療の受付窓口となり、院外患者様からの問い合わせなどにも対応している。

亀田総合病院では平成27年8月に「若年女性がん、免疫疾患のQOL向上を志向した卵巣組織凍結」の倫理審査が通り、今度から卵巣組織凍結を行える体制を整えた。5月に1例目を実施した。

妊孕性温存等がん・生殖医療の啓発のために、亀田グループ医療ポータルサイトに「がん・生殖医療(妊孕性温存)とは」<http://www.kameda.com/pr/cms/art/004/index.html> というページを作り、妊孕性温存がなぜ必要なのか、どういう方法があるのか説明をしている。「がん治療を始める前に卵子・精子の凍結を考えてみませんか」「臨床心理士からのメッセージ」「乳がん専門医師からメッセージ」の動画も作

成し、患者が相談しやすくなるように工夫した。これらは YouTube でも視聴できるようになっており、がん・生殖医療の啓発、心理支援体制を患者に周知するのに役立っている。

また、当院より毎月2回発行している「亀田ニュース」で9月1日号から全12回にわたりコラム『生殖医療科って何をしているところなの?』を掲載し、その中で「がん・生殖医療(妊孕性温存)への取り組み」を紹介した。

これらの取り組みにより、院外施設から紹介される患者も増えてきている。今年度2月までに他施設から紹介されたがん患者は6例、当院の患者も含めると、妊孕性温存したがん患者は18例であった。また youtube にアップした「がん治療を始める前に卵子・精子の凍結を考えてみませんか」は半年で900回の再生回数となり妊孕性温存の情報提供に役立っていることが考えられる。

2) 日本生殖心理学会のがん生殖保存心理カウンセリング小委員会(奈良、宮川)では、日本がん・生殖医療学会(JSFP 理事長:鈴木直)と共同で「がん・生殖医療専門心理士養成講座」の開講に向けて準備を行った。

妊孕性温存等がん・生殖医療に関わる心理支援は、がん治療と生殖医療の両分野についての広範な医療知識とがん患者への心理援助技術が必要となるため、養成講座カリキュラムの選定に議論を要した。

妊孕性が問題になる癌腫(乳癌・婦人科癌・泌尿器癌・血液癌)のがん治療の実際と妊孕性への影響などの講義、がん患者への心理援助技術について講義や演習など、計33時間のカリキュラムを作成した。講義・演習の受講後、認定試験を行い、7割以上正答できた者を認定した。

平成28年度は18名のがん・生殖医療専門心理士が認定された。当院からは研究協力者である奈良と宮川が講師を勤め、養成講座も受講し、がん・生殖医療専門心理士の認定資格を得た。

平成28年7月30、31日に JSFP がん・生殖医療連携会議、及び Oncofertility Consortium JAPAN 2016 準備会議が行われた。

この会議は「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」堀部班の生殖小班によるがん・生殖医療連携に関する会議で、研究分担者の川井と協力者の奈良が参加した。川井から、千葉県におけるがん・生殖医療の現状と今後の地域連携の展開について発表と討議を行った。

平成28年9月23日に第29回日本サイコオンコロジー学会において、研究協力者である奈良が「総合病院におけるがん・生殖医療への取り組み」について発表した。

平成28年10月1日に第17回千葉リプロダクション研究会において、研究協力者である奈良が「がん・生殖医療における心理支援の取り組みと展望」について発表した。

平成28年11月25日に、第29回日本総合病院精神医学会において、研究協力者である奈良が「がん・生殖医療受診時の患者の精神状態と妊孕性温存実施の関連性についての検討」の発表を行った。

平成28年12月4日に「小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと生殖医療ネットワーク構築に関する研究」三善班による、がん専門相談員向け若年がん患者の妊孕性温存に関する相談支援研修会に参加した。

平成28年12月12日に「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」堀部班の生殖小班による

Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016『地域完結医療モデルの全国展開およびがん・生殖医療における心理支援体制の構築』が開催され、研究協力者である奈良と宮川が参加した。

平成29年1月29日に鈴木班による「若年乳がん患者の妊孕性温存に関する心理支援セミナー」を開催し、研究協力者である奈良が「乳がん患者の妊孕性温存における心理支援」について発表を行った。

D. 考察

1) がん診療科からの紹介を円滑に行うために「がん・生殖医療依頼テンプレート」を作成したが、必要な情報の漏れが生じやすいという問題点があったため必要項目を漏れなく入力できるよう網羅したチェックボックス式のテンプレートに統一し円滑な連携が行われている。院外患者の紹介を受ける際に、必要な情報が不足している事が見られたため、紹介状案を作成し配布した。

当院への紹介は、患者自身からがん・生殖医療初診の窓口であるがん・生殖医療専門心理士への連絡を入れて頂くように統一した。問い合わせから、がん・生殖医療の情報提供、カウンセリング、自己決定までを、がん・生殖医療専門心理士が一貫してサポートする事で、患者の満足度が増加した。

初診前に「がん治療を始める前に卵子・精子の凍結を考えてみませんか」の動画を見て頂く事で、患者の理解が早まり診察に同席しなかった家族が、がん・生殖医療を理解するのに役立っている。

患者や家族がインターネットで妊孕性について調べる事が多く見られ、インターネット上の情報を充実させる事が、がん・生殖医療の啓発に効果的だと考えられた。

2) がん患者が将来の妊娠や出産に関し

て最良の選択を自己決定するためには、医師だけでなく、看護師、臨床心理士、薬剤師、ソーシャルワーカー等、様々な専門性を持つ医療者の参画と連携体制の構築が必要である。

千葉県には日本産婦人科学会の医学的適応による未受精卵子および卵巣組織の採取・凍結・保存に関する登録施設は当院を含め2ヵ所しかなく、妊孕性温存出来る施設は限られている。そのため、がん・生殖医療の千葉県近接領域の医療連携について、他施設、多職種に働きかけて、意見交換などをおこなっているが、ネットワークを構築するまでに至っていない。それは、医療者の意識や情報格差、医療スタッフの人材不足、医療設備環境の不備などが相まっけると考えられた。

近接領域と医療連携を進めるために、今後も研究会、学会参加、論文発表などを進め、情報発信を行っていく。医療の質や安全性を高めるために、各職種が専門性を磨き、研究への参加等も進めていく。

E. 結論

がん患者や家族が妊孕性や将来の妊娠・出産の事で心配を感じたら自ら情報を収集し、相談できる体制を整えるために、当院ではインターネット上にがん・生殖医療の情報を充実させた。がん・生殖医療専門心理士に相談窓口を一本化し、円滑に継続してがん・生殖医療や相談が行えるよう体制を整えた。今後も千葉県の近接領域と連携を進め、がん・生殖医療のネットワーク構築に取り組んでいく。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

1) 奈良和子・宮川智子・大内久美・川井清考

「総合病院におけるがん・生殖医療への取り組み」第29回日本サイコオンコロジー学会；札幌コンベンションセンター（北海道）；2016年9月23日

2) 奈良和子・宮川智子・金高智子・細川裕子・山田成子・寺岡香里・川原麻実・原田竜也・川井清考 「がん・生殖医療における心理支援の取り組みと展望」第17回千葉リプロダクション研究会；三井ガーデンホテル千葉（千葉県）；2016年10月1日

3) Kawai K, Ohuchi K, Nara K, Miyagawa T, Kidera N, Iwahara Y, Yamamoto A, Ishikawa T, Kawahara M, Teraoka K, Harada T 「Efficacy of Random-start Controlled Ovarian Stimulation in Breast Cancer Patients」1st ASFP Conference；ホーチンミン；2016年11月19日（ベトナム）

4) 奈良和子・宮川智子・小石川比良来・大内久美・川井清考 「がん・生殖医療受診時の患者の精神状態と妊孕性温存実施の関連性についての検討」第29回日本総合病院精神医学会学術総会；日本教育会館（東京都）；2016年11月25日

5) 奈良和子・宮川智子・福岡英祐・川井清考 「若年乳がん患者の妊孕性温存に対する心理支援」厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究（がん制作研究））推進事業 若年にゆうがん患者の妊孕性温存に関する心理支援セミナー；横浜情報文化センター（神奈川県）；2017年1月29日

6) 奈良和子・宮川智子・川井清考 「がん患者の妊孕性温存に対する心理的支援」日本A-PART学術講演会2017；ハイアットリージェンシー東京（東京都）；2017年3月19日

7) 川井清考 「がん・生殖医療の連携の現状について」がん生殖医療セミナー；土浦協同病院（茨城県）；2017年3月24日

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案

なし

3. その他

なし

テンプレート入力 - がん・生殖医療依頼票

	宛先：亀田総合病院 生殖医療科 亀田IVFクリニック幕張 がん・生殖医療御担当医机下
依頼科	<input type="text"/>
担当医名	<input type="text"/>
PHS	<input type="text"/>
患者ID	<input type="text"/>
氏名	<input type="text"/>
年齢	<input type="text"/>
婚姻	<input type="checkbox"/> 既婚 <input type="checkbox"/> 未婚
連絡先 携帯電話：	<input type="text"/>
連絡先 自宅：	<input type="text"/>
	↑2ヵ所必ずご記入下さい
病名	<input type="text"/>
告知	<input type="checkbox"/> 告知済み <input checked="" type="checkbox"/> (表示)
施行済み・施行中のがん治療	<input checked="" type="checkbox"/> (表示) 当てはまる箇所にチェックして下さい <input type="checkbox"/> 手術 <input type="checkbox"/> 化学療法↓ エンドクソンなど生殖機能を低下させる抗癌剤の使用 <input type="checkbox"/> →あり <input type="checkbox"/> →なし <input type="checkbox"/> 放射線療法 <input type="checkbox"/> ホルモン療法 <input checked="" type="checkbox"/> (表示)
これから施行予定のがん治療	<input checked="" type="checkbox"/> (表示) 当てはまる箇所にチェックして下さい <input type="checkbox"/> 手術 <input type="checkbox"/> 化学療法↓ エンドクソンなど生殖機能を低下させる抗癌剤の使用 <input type="checkbox"/> →あり <input type="checkbox"/> →なし <input type="checkbox"/> 放射線療法 <input type="checkbox"/> ホルモン療法 <input checked="" type="checkbox"/> (表示)
妊孕性温存の適応	<input type="checkbox"/> 抗癌剤・放射線治療により、妊孕性温存の適応と考える <input type="checkbox"/> 術後の病理所見によって、抗癌剤・放射線治療の可能性があるので妊孕性温存の適応あり ↑必ずどちらかにチェックをお願いします <input checked="" type="checkbox"/> (表示)
がん治療開始までの猶予期間	<input type="checkbox"/> 妊孕性温存後すぐ治療 <input type="checkbox"/> 早急にがん治療を開始したい <input checked="" type="checkbox"/> (表示)
その他	↓その他：予後、懸念事項などご自由にお書き下さい <input type="text"/>

既定値付きテンプレート 内容確認 ... 経過記録にコピー タイトル名表示 入力完了 取り消し



亀田総合病院 がん・生殖医療の流れ

亀田グループ医療ポータルサイト
「がん・生殖医療とは」
「がん治療を始める前に卵子・精子の凍結をがんがえてみませんか？」
動画を視聴いただく

- 主科担当医
- ①がん・生殖医療の依頼(テンプレート記載)
 - ②「がん・生殖医療の予約」の連絡

- ①がん生殖カウンセリング(情報提供・見守りリスト・相談・自己決定支援)の実施
- ②生殖医療科 初診 (AMHなど卵巣予備能の評価・ICなど)

妊孕性温存
しない

精子凍結

受精卵凍結
43才以下

卵子凍結
42才以下

卵巣凍結
40才以下

がん担当医に報告

当院で実施

遠方の患者など他院紹介

がん・生殖医療問い合わせ、
診察予約についてのお知らせ



問い合わせ・ご予約は、患者様からお願いします。
亀田総合病院 04-7092-2211(代表番号)をご案内頂き
「がん・生殖医療の問い合わせ・予約」とお伝えください。

担当者が対応いたします。
不在の場合は折り返しお電話いたします。

「がん・生殖医療外来」の予約、多施設への紹介、
セカンドオピニオンなどにも対応します

亀田総合病院
亀田IVFクリニック募張で診察
(医師診察・心理カウンセリング・遺伝カウンセリング
を行います)

他院へのご案内

卵子

卵巣
組織

受精卵

精子

温存
不可



貴機関の診療情報提供書をお書きになる
場合は、患者の婚姻状況、がん告知日、
TNM分類、病期、病理結果、がん治療の
予定、治療開始までの猶予期間、
妊孕性温存療法の許可について、
ご記入頂けずようお願い致します。

患者さま・医療機関からの
がん・生殖医療紹介・受付の流れ

*「がん・生殖医療の問い合わせ」・他病院からの紹介FAX
など、すべて心理へ回して下さい。

- 1 心理 奈良(6476)
- 2 心理 宮川(4719)

院外患者受付チェックリスト実施
院外患者ID作成
がん・生殖カウンセリング予約
ART予約(がん・生殖)

- 3 ARTセンター

院外患者受付チェックリスト
点線内を尋ね記載
受付日時、受付者を記載
心理へ電話連絡(日時・心理名記載)
チェックリストはボードに貼っておく

- (1)心理 奈良(6476)
- (2)心理 宮川(4719)

患者様に折り返し電話
院外患者受付チェックリスト実施
院外患者ID作成
がん・生殖カウンセリング予約
ART予約(がん・生殖)

院外患者受付チェックリスト

- 氏名 _____ 男・女 年齢 _____ 歳 既婚・未婚
- 住所 _____ (県と市は必ず聞く)
- 連絡先 携帯 _____ 自宅 _____ (連絡先は2カ所)
- 現在かかっている医療機関 _____ 病院 _____ 科
- 主治医 _____ 先生
- 病名 _____ (必ず聞く)

- 抗がん剤 治療前・治療中・治療後
 - 治療前の方は、治療開始予定はいつですか？
 - 治療中の方は、現在どんな治療をされていますか？
 - 治療後の方は、これまでどんな治療をされましたか？

紹介状 あり・なし (ない場合は主治医に紹介状を依頼して下さい)

問い合わせ内容 _____

- 当院受診希望 あり・なし
- 備考 _____

受付日時 _____ 受付者 _____ →cp連絡日時 _____ 心理 _____

がん生殖医療依頼状(案)

平成 年 月 日

亀田総合病院 不妊生殖科 依頼医療機関名: _____
 亀田 IVF クリニック募張 診療科名: _____ 医師氏名: _____ 印
 がん生殖ご担当医 御中 住所: _____
 TEL: _____ FAX: _____

下記患者を紹介します。

フリガナ	性別	男・女
患者氏名		
生年月日	明・大・昭・平 年 月 日 (歳)	婚姻 既婚・未婚
住 所	〒 _____	
電話番号	自宅: _____ 携帯番号: _____	(連絡先を複数ご記入下さい)
病 名	貴院初診日: 年 月 日	告知日: 年 月 日
病歴:	_____	
TNM 分類:	_____	
組織型など病理結果:	_____	
これまでの治療内容や今後の治療予定を教えてください。(当てはまる所にチェックを入れご記入下さい)		
手術:	<input type="checkbox"/> 予定 <input type="checkbox"/> 施行済み (年 月 日) 術名 _____	
放射線治療:	<input type="checkbox"/> 開始予定 (年 月 日 ~) <input type="checkbox"/> 施行 (期間 _____ ・部位 _____)	
ホルモン療法:	<input type="checkbox"/> 開始予定 (年 月 日 ~) <input type="checkbox"/> 施行 (期間 _____ ・薬剤名 _____)	
化学療法:	<input type="checkbox"/> 開始予定 (年 月 日 ~) 薬剤名 _____	
	<input type="checkbox"/> 施行済み 期間 _____ 薬剤名 _____	
その他治療:	_____	
治療開始までの猶予期間:	_____ (治療開始時期を教えてください)	
注意事項などご記入下さい: _____		

お問い合わせ・がん生殖医療外来のご予約は、患者さまからご連絡下さい。当院電話番号のご案内をお願いします。
 亀田総合病院: 04-7092-2211 (代) 臨床心理士 奈良・宮川・不在の場合はARTセンターへ
 こちらの「がん生殖医療依頼状」をご使用の場合は、押印して患者様にお渡し頂けずようお願い致します。